



飯能西中だより

天覧山 11月号

飯能市立飯能西中学校
学 校 だ よ り
令和3年度 第8号
令和3年11月19日発行

<校訓> 誠・和・進

<学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

皆様に支えられ 飯能西中学校は今年50周年の節目を迎えました。

魔法の言葉

校長 中村 公一

秋の深まりとともに日暮れの早さを感じられるようになって参りました。新型コロナウイルス感染症の猛威が一旦収まり、世間には収束ムードが漂っていますがまだまだ予断を許さない状況である事にかわりありません。未就学児や小学生のほとんどがワクチン接種などの対策が施されていないということをお忘れはいけないと思います。引き続き生徒の衛生面には気をつけていきたいものです。

さて、私がこの学校に赴任してから7ヶ月になりますが、最近ではちょっとした相談で校長室を訪れる生徒や、校長室の出入り口から気軽に挨拶をしてくれる生徒が増えてきました。挨拶は人間関係を築く上では欠かせないものです。生徒、先生、保護者、西中に集うみんなが気軽に挨拶したいものです。

私が以前赴任していた中東のバハレーン（バーレーンということが多いのですが、現地の日本人学校では実際の発音に近いバハレーンという呼び方をしています）は、古くから交易の拠点であったため、様々な人たちが働いていました。たとえば日本人学校の事務員はフィリピン人、ドライバーはイラン系のバハレーン人、用務員はスリランカ人、警備員は南インド（インドも北と南では言葉も文化も違います）の人でしたし、住宅の管理人や庭師はそれぞれバングラディッシュ人やパキスタン人と言う具合に実に多くの国から働きに来ている人たちがいました。彼らそれぞれに母国語がありますが、仕事をしているときに使う言葉はみんなが知っている英語です。私たちが使う英語がそうであるようにそれぞれの言語に特有の訛りのようなものがあるので、最初は聞き取れなくて戸惑うことがありましたが話しているうちにだんだんと慣れてくるもので、日常生活の上で困るようなことはあまりありませんでした。

ところで、言葉や文化、風習が違う場所に移り住んで、家族そろって安定した生活が送れるようにするためには、まずたくさんの人と知り合いになり仲良くなることが不可欠です。特に海外においては、相手に自分の立場や気持ちを察してもらおうというような甘えは通用しません。自ら進んで働きかけて自分のことを認めさせていかなくてはならないのです。実はそんなときの心得として先輩教員から教えられていたのが挨拶なのです。どの国の人たちも母国語で挨拶をしてもらうと自然に笑顔がこぼれてきます。「今、目の前にいる相手は自分のことを理解してくれようとしている」という嬉しさと安心感で緊張が解れるからなのだと思います。そこで私はバハレーンで公用語になっているアラビア語以外にも、インド、スリランカなど様々な国の「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」という言葉を教えてもらって自分から話しかけるようにしました。毎日3カ国語で挨拶をしていました。最初は笑われていましたから下手な発音だったのでしょう。それでも、毎日使っているうちに発音にも慣れ自然に挨拶できるようになり、そのお陰で困ったときには何でも気軽にお願いできるようになったのです。英語力よりもこれらの挨拶を交わすことが人間関係の潤滑剤になっていたことは間違いのないと思います。

そういえばこんなことがありました。海外の駐在員の仕事では夜会等に呼ばれることも多く、小さい子どものいる家庭では子どもの面倒を見てもらうためにメイドを雇うのが一般的です。我が家で働いていたメイドはスリランカ人だったのですが、彼女はスリランカで保育士の仕事をしていたことがあり、娘（早紀といいます）への躾もしっかりとしてくれている人でした。あるとき、確か娘がメイドからおもちゃか何かを手渡してもらったときのことだったと思います。娘がそれを受け取って黙ったままでしたら「サキ、あなたは忘れてしまったの？人をハッピーにする魔法の言葉（magic word）よ」と話しかけたのです。それを聞いた娘が「Thank you」と言うと、「素晴らしいわ、あなたはなんてお利口なんでしょう。」そう言ってぎゅっと抱きしめて褒めてくれたのです。

人を幸せにする魔法の言葉。メイドの教えは今も我が家には残っています。

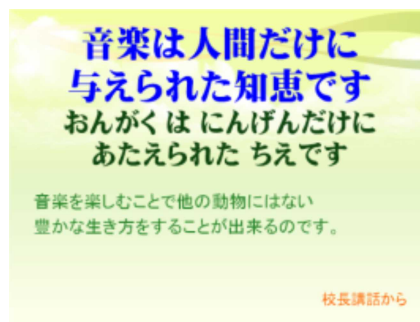
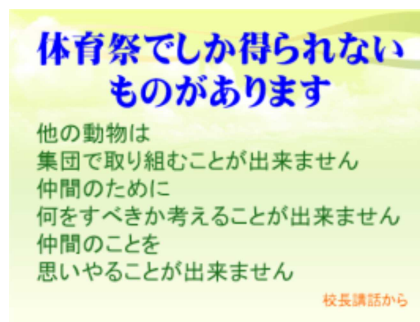
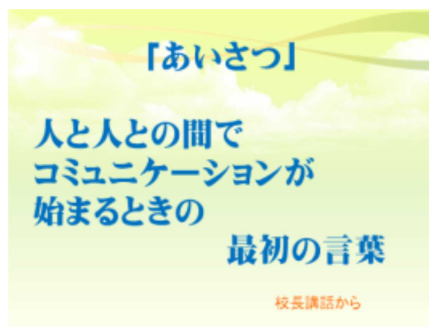
校長講話から

16日の学校朝会では次のようなお話しをしました。まず、挨拶のことについてです。4月、本校に着任して最初の朝会でお話したのも挨拶のことでした。どの言語においても必ず挨拶というものがあります。なぜなら、人と人がコミュニケーションを開始するときに最初に交わす言葉だからです。ですからよい挨拶はよいコミュニケーションの第一歩だと言えるのではないのでしょうか。こんにちちと言う言葉が飽きたのなら、おつかれさま、頑張ろうね、やあ元気？何でもいいのではないのでしょうか。少なくともわざと目をそらして通り過ぎるよりは気持ちが楽になるものです。よい習慣というものはある年齢から急に出来るようになるものではありません。今から幾度も繰り返していけば、大人になったときにいつの間にか身につけているものなのだとすることを忘れないでください。

さて、今年も新型コロナウイルス感染症のために全校の体育祭や合唱祭を行うことが出来ませんでした。それぞれの行事にはその行事でしか得られない、皆さんの心の成長に欠かせない貴重な体験がたくさんあるだけに非常に残念です。例えば体育祭ではクラス全員で一つの競技に取り組む場面がたくさんあります。他の動物の場合には群れることはあっても、それぞれの個体が一つの目標に向かって取り組むなどということはありません。私たちの身体的な能力には個人差がありますから運動が得意な人もがいれば苦手な人だっています。しかし一つの目標を達成するために自分に出来ることを考え、お互いが思いやる事が出来るのは人間だけなのです。そういう意味においては、合唱コンクールなども一つの目標に向かうクラスでの取り組みなわけですから、体育祭と同じように仲間とともに何かを成し遂げようとする事から学ぶことはたくさんあります。しかし音楽の場合にはもう一つ皆さんに学んで欲しいことがあります。それは、音楽は人間だけに与えられている知恵だということです。他の動物の場合には鳴くことはあっても唄うことはありません。鳥のさえずりのことを歌うと言うこともありますますが擬人化した表現に過ぎません。音楽は学校の音楽の時間だけではなく。皆さんの周りにはたくさんの音楽が溢れていて誰もが好みの音楽を持っていることでしょう。人間は音楽というものによって心を振るわせることにより、他の動物とはちがう豊かな生き方をする方法を編み出してきたのです。体育や音楽、美術などの芸術をそのような視点で更に深く捉えてみて欲しいと思います。

生徒会役員選挙がありました

先月19日は生徒会選挙の投票日でした。たくさんの生徒が立候補し飯能西中学校の未来について真剣に考えてくれました。候補者の中には校長室を訪れ、公約のことについてお話をしてくれた人もいます。今回の選挙で立候補した皆さんは、全員がすばらしい公約を掲げていたことに誇りを持ってほしいと思います。惜しくも落選してしまった皆さんには、勇気を出して一歩を踏み出したことに対し、心から賞賛の言葉を贈りたいと思います。



令和3年 生徒会本部役員					
会長	2年A組	谷脇 光			
副会長	2年C組	木崎 心花			
2年役員	2年B組	藪内 彰人	2年C組	小室 ゆり子	
	2年C組	横尾 愛子			
1年役員	1年B組	赤坂 碧生			
	1年C組	長瀬 門土			

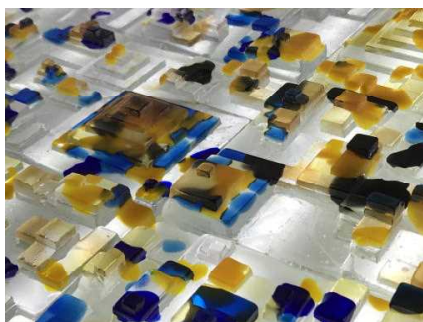
修学旅行を終えました

一学期の実施を見合わせていた修学旅行を先月末に実施しましたが、旅行中は発熱などの体調不良を訴える生徒もなく無事に終わることが出来ました。目的地を変更せず当初の予定通り京都・奈良方面にでかけることが出来たため生徒達も大変嬉しかったようです。旅行初日、出発して間もなくのことですが、手配していただいていたバスで車両故障が発生してしまいました。幸い生徒に怪我や体調不良はなかったのですが、結果的に予定していた新幹線に乗り遅れてしまうというハプニングがありました。後発の列車に乗り換えるという普通ではあり得ないトラブルだけに一時はどうなることかと思ったのですが、先生方も添乗員さんも大変優秀で落ち着いており、計画を少しずつ変更しながら無事に初日の行程を終えることが出来ました。生徒達も先生方の緊張感を読み取り、指示をよく聞いて全員が時間通りに行動してくれていたのが印象的でした。幸い天候には大変恵まれていて充実した三日間を送ることが出来ました。保護者の皆様方には重ねて感謝申し上げます。



創立50周年の記念式典が行われました

13日(土)に12:30からライブ配信により、飯能西中学校創立50周年記念式典が行われました。先月号で紹介させていただいたように体育館をメインスタジオとして記念式典と「我武者羅応援団」によるステージパフォーマンスを行い、その様子をYouTubeで配信しました。当日まで生徒には内緒にしてあったのですが、「我武者羅応援団」には各教室を回り、各クラスの学級目標をもとにエールを送ってもらいました。



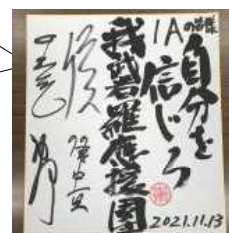
50周年記念工芸作品の一部です



50周年記念絵画作品の全景です



我武者羅応援団から各クラスに一枚ずつ、応援メッセージ入りのサインをもらいました。



美術部の皆さんが、我武者羅応援団へのメッセージを黒板に描いてくれました



リハーサル中の会場の様子です。企業を含め大勢のスタッフが集まりました

創立50周年記念式典を通して考えて欲しいこと

生徒の皆さんへ

先日、本校創立50周年の記念式典が行われましたが皆さんにとってどのような体験だったでしょうか。式典の挨拶の中でもお話ししたように、この学校が出来たときに中学1年生の生徒だった人たちは今年63歳を迎えます。会社などに勤めていた方の場合だと、最近、定年退職を迎えて第二の人生を始めたばかりだという人も少なくないでしょう。どの中学校においても創立50周年というのはこのように、創立当時、生徒だった大人たちがこれまでの半生を振り返るタイミングに当たっているのです。今回の記念式典でも多くの方たちが、自分自身が中学生だったときのことを思い出しながら、現役生の皆さんによりよい思い出を作ってもらおうと一生懸命係わってくれました。第2部で「我武者羅応援団」を呼んだのも、コロナ禍の中で様々な行事や部活の大会が無くなってしまっていてがっかりしている生徒の皆さんに元気になってもらいたいという実行委員の思いが強かったからです。

今回の式典はインターネットや通信技術を駆使した全国的にも珍しい取り組みだったため、ITに関する専門的な知識や技術が必要でした。そこでNTTドコモやイベントの制作会社などから20人以上の協力をいただきました。学校の行事のために民間企業からこれだけ多くの人が集まるのは前例がありません。そこで問題になったのはいかにして一つの組織にまとまるかということでした。皆さんに説明するのはなかなか難しいことではあるのですが、例えば学校行事などのイベントを進めていく際、学校には民間企業には無い独特な進め方があります。それぞれの会社、それぞれの業種においても同様に各々のやり方には違いがあるので、ただ単に学校から指示や要求を出せばいいというものではないのです。大切なのは、私たちは何を成し遂げるために集まっているのかという目的意識を共有することです。今回の目的は正に「生徒の思い出に残る式典を成功させたい」という願いでした。願いを実現するために「ああして欲しい」「こうして欲しい」と互いに要求しあっているだけではチームとしてまとまりません。その願いを実現するために私たちは「こんなことが出来るけどどうだろうか」「そのためにはこうしてもらえるといいのだけど」というように自分の役割や相手の役割を意識するようになって初めてチームができてくるのです。このことをチームビルディングと言います。中東でのプラント建設などでは言語や習慣が違う人が何百人も集まるのでこれを組織化していくのはものすごく大変なのですが、契約した完成日から一日遅れるごとに数千万円の違約金が発生することがあるので、請け負った建設会社にしてみれば死活問題です。皆さんがやがて社会に出て働くようになったとき、このお話を思い出すときが来るかもしれません。ここまでのお話しでもう気が付いた人もいるかもしれませんが、チームビルディングとは皆さんの学級作りそのものではありませんか。何気ない普段の学級内での生活経験で得た仲間と協力する力は社会に出てから役に立つのです。みなさん、学校を出れば自由で楽になると思っていたらそれは違いますよ。学校を出てからの方が大変なことだってたくさんあるのです。日々頑張っていることが役に立つ日がきっと来ます。

○ 11月の主な行事予定 ○

9日(火) 三者相談①	20日(土) テスト前諸活動停止期間開始
10日(水) 三者相談②	23日(火) 勤労感謝の日
11日(木) 三者相談③	24日(水) 避難訓練
12日(金) 三者相談④	25日(木) 期末テスト①給食・清掃なし
13日(土) 50周年記念事業	26日(金) 期末テスト②
14日(日) 県民の日	
15日(月) 振替休業日	今月号は行事の関係で発行日が遅くなったため
16日(火) 全校朝会 三者相談⑤	既に終えてしまった行事もあります。